

週刊 鋼構造ジャーナル

2011
7/11 NO. 1517

週刊(毎週月曜日発行) / 購読料・1カ年49,500円、6カ月27,000円(税・送料とも) / 昭和55年9月26日第三種郵便物認可 / 発行所・株式会社 鋼構造出版 / 発行人・田中正幸 編集人・大熊稔 / 本社・東京都中央区日本橋茅場町2-2-2 三恵ビル5階 〒103-0025 電話 東京03(5642)7011(代表) F A X 03(5642)7077 / 大阪支社・大阪市西区西本町1-14-3 本町コスモビル 〒550-0005 電話06(6536)2601(代表) F A X 06(6536)7603 / 札幌支局・札幌市白石区北郷4条3丁目2-21 〒003-0834 電話011(879)7666 F A X 011(873)3636 / 振込銀行口座・みずほ銀行京橋支店024-1044873 / 郵便振替口座 東京00130-9-13713

おもな記事

- 橋建協 / 10年度の鋼橋受注は約29.7万トと微減…… (2面)
- 5月の鉄骨需要は約34万ト / 国交省建築着工統計…… (5面)
- 東日本大震災関連ニュース / 岩手県津波復興計画…… (8面)
- 新理事長 / 奈良県鉄構建設業協同組合・吉川健太郎氏 (10面)
- 大手ファブトップ⑫ / 日本鉄塔工業・有田陽一社長…… (11面)
- 特集 / 「ビルトH」第三者認定制度創設から10年 (12~19面)
- 特集 / 「脚光を浴びる耐震補強」…… (21~24面)
- 関東版…… (26面) ● 北陸版…… (27面)
- タケタ機械 / 中国初の鉄構構造展に出展…… (32面)
- 藤木鉄工(新潟) / 300名集い「安全大会」催す…… (33面)



荷積みを終えた仲田会長(前左列)と日構専教職員。後列右は奥村学校長。左下は仲田会長と矢本製作所の菅井社長(右)

津波の被害 矢本製作所(宮城)に溶接機

日本溶接構造専門学校同窓会

会員所属企業の復旧を支援

日本溶接構造専門学校(略称「日構専」、神奈川県川崎市、奥村誠学校長)の同窓会(会長 仲田孝幸・仲田鉄工建設社長)は、東日本大地震で被災した会員所属企業の復旧・復興支援の一環として、中古加工機の現地提供を開始。6月29日、仲田会長が宮城県東松島市の矢本製作所を訪れ、溶接機3台を贈った。

「義援金よりも物的支援を推進し、被災ファブの業務再開のお役に立ちたい」という仲田会長の呼びかけに、同窓生の鈴木康之氏(鈴木鉄工建

設専務(東京)が賛同し、半自動溶接機1台、TIG溶接機2台の提供を申し出たもの。事前整備のためにいったん日構専に持ち込まれた溶接機は、28日に奥村学校長ら日構専教職員が見守るなかトラックに積み込まれ、翌29日に仲田会長が単身、現地へと搬送した。

提供先の矢本製作所は、菅井正幸社長の長男である篤専務が日構専卒業生。石巻港から内陸約2キロに位置する工場と事務所は高さ1層の津波に見舞われ、ハード、ソフト両面で大きなダメージを受けた。

菅井社長は「少しずつ復興関連の仕事が始めているが、モノが作れる状態でなければ対応のしようがない。今回、溶接機を提供していただいて本当に助かる。ありがたい」と感謝の言葉を述べた。

また仲田会長は「全国に広がっている日構専卒業生のネットワークを、今こそ発揮する時。これからも被災地からの要望があれば順次対応していきたい」と話している。